



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：410千円

2023年度大学・大学生・若者による浜松市の中山間地域再生の可能性を考える シンポジウム「まちむらリレーション市民交流会議2024」

目的・趣旨

本学学生（船戸ゼミや引佐耕作隊）や「浜松山里いきいき応援隊」など浜松の中山間地域で活動している若者が会し、中山間地域再生の方策を議論すると共に本学の地域貢献を発信した。

日時・場所

令和5年9月1日～令和6年2月29日
浜松市浜北文化センター

体制

（実施代表者）文化政策学部 文化政策学科 教授 船戸 修一

共催・後援等

（共催）浜松市

内容

令和5年度は浜松市浜北文化センター開催し、その内容は、後日アーカイブ配信もした。第1部は「地域づくりの新しい仲間・関係人口」というタイトルで田中輝美氏（島根県立大学地域政策学部 准教授）に基調講演していただいた。第2部は、本学船戸ゼミの植田勝也氏（文化政策学科3年）が浜松市浜名区引佐町久留女木地区から転出した子どもたち（以下「他出子」という）を調査し、他出子が実家に帰省している事実から他出子を自治会活動や年間行事に巻き込むことにより地域の新たな担い手（関係人口）づくりにつながることを発表した。NPO法人ひずるしい鎮玉の廣瀬稔也氏（事務局長）もNPOで運営する地元カフェを通じた関係人口づくりの可能性と課題を報告した。



結果・成果

今回のシンポジウムの結果・成果は、以下3点あげられる。第1に、昨今地域づくりにおいて注目されている「関係人口」について、その研究の第一人者である田中輝美氏を招き、その内容と可能性を考えることにつながったことである。第2に、現在本学の学生や地元NPOによる活動を「関係人口」という視点から捉え直したことである。第3に、この「関係人口」という視点から今後の浜松の中山間地域づくりを展望あるいは構想したことである。中山間地域では人口減少や高齢化が顕著である中、新しい地域の担い手づくりとして「関係人口」の創出が求められているが、そもそも、その曖昧さゆえに誤解が多い。そこで、この「関係人口」を専門研究とする田中氏から「関係人口」が地域で果たす可能性や課題を説明するだけでなく、参加者とともに浜松の中山間地域に活かす方法を考えることになったことは意義深い。今回は平日開催であったが、会場には約180名の参加者があり、対面開催した4年前と変わらない状況であった。当日の様子は本学公式YouTubeチャンネルにアップロードされ、浜松市のHPからも視聴可能である。こうしてシンポジウム終了後も動画によって「関係人口」による浜松の中山間地域づくりについて市民と一緒に考えて考える場を提供することになる。これは本学が取り組む地域貢献の活動や意義も発信することにもつながる。引き続き「まちむらリレーション市民交流会議」が果たす役割を大きいと思われる。

